

## — 編集後記 —

編集委員長 増田 陽一郎

本学も満10周年目を迎え、すでに約1,700名の卒業生を産業界に輩出して来た。

今春、時代の要請に応えて、我国の私学では全く新しいエネルギー工学科を増設し第二の発展期を迎えた。

特に近年、メカトロニクスやバイオテクノロジー等の発展に伴い先端技術の開発および学際的領域にわたる研究課題が増加して来ており、地元青森県、八戸市および産業界から本学に向けられる期待は大きいものがある。

ここ数年来、本学の研究設備の充実と共に研究、教育の面でも着実に成果が上がって来ている。このことは年毎に文部省科学研究費の補助および各種研究財団からの科学研究費の助成を受ける教職員が増加していることから伺い知れることであり非常に喜ばしいことである。

八戸工業大学紀要の発刊の第一の目的は本学に在籍する教職員の研究活動の成果の発表の場を既存の学会等の発表機関とは別に設けたことである。また一つには、本学で遂行した研究業績の蓄積を計りその研究の伝統を継承することにある。その外、他の大学または他研究機関との研究連絡を密にすることも目的の一つである。その意味でも紀要に掲載する論文はそのオリジナリティーは言うに及ばないが、研究途上の速報的なものまた官民諸団体からの委託研究および調査報告的なものまでを包括した内容である。第2巻に採択されている論文数は14編である。その内訳は機械工学3編、電気工学3編、土木工学2編、建築工学2編、エネルギー工学1編および一般教育3編である。また本学紀要は理工学、文学、語学および教育学の諸分野までも盛込んでいるのが特徴的である。

紀要の最後には本学教職員の研究活動一覧表を掲載した。掲載した研究論文は原則として第1巻発行以後のものとしたが、一部第1巻に掲載されなかったものも含まれている。またこのリストは学内の教職員の研究業績の全てを網羅したものではなく自由報告により希望者の論文のみを掲載した。

紀要の体裁、投稿原稿の内容、紀要の発行日などまだ研究検討すべき課題を沢山含んでいるが、今後皆様の御支援と御努力により一層充実した紀要にしてゆきたいと考えている。御多忙中にかかわらず精力的に論文を執筆して下さった著者の方々および編集委員会の各位に対して深甚なる謝意を表する次第である。

(1982.12.3記)